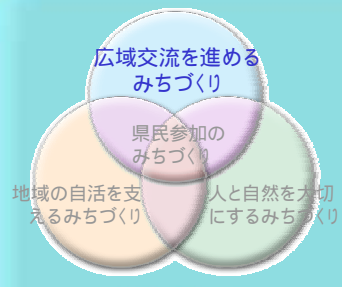


広域交流を進めるみちづくり



山口県に住むどのくらいの人が、快適に高速道路にアクセスできるか？

高速IC30分圏人口カバー率

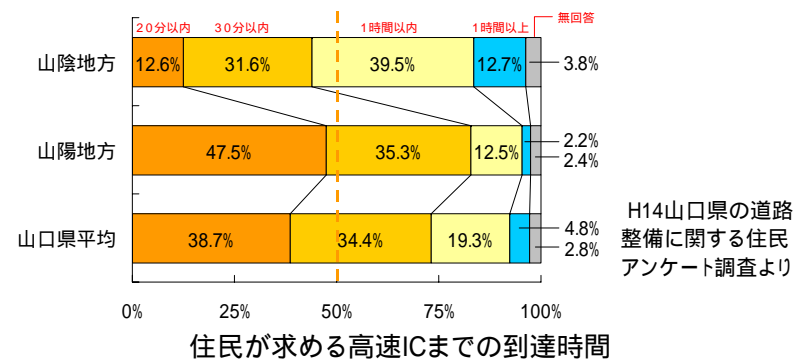
(高速IC30分圏人口カバー率 = 高速道路ICから30分圏の人口/県内の全人口)

高速道路のインターチェンジまで、30分以内でアクセス可能な地域に住んでいる人の割合。



地域の現状と課題

高速ICアクセス性に関する住民意見
高速ICまでの到達時間は、山陽地域では20分程度、山陰地域では30分程度が求められています。



高速ICや近隣の中核都市へのアクセス性
山陰地方の多くの地域では、高速ICへの移動に30分以上要し、近隣の中核都市（広島、福岡）への移動には2時間以上を要します。



公共交通拠点(新幹線駅、空港)へのアクセス性
山陰側の多くの地域が、新幹線駅への移動に30分以上を要します。
また、山口県東部には空港がなく、山陽側でも、空港への移動に1時間以上を要する地域が見られます。



課題への対応

陰陽を結ぶ道路ネットワークの整備

高速ICや新幹線駅、空港等へのアクセス性は、特に山陰地域において十分でない状況です。今後は、「山陰自動車道」の延伸や「地域高規格道路 小郡萩道路」の整備など、陰陽を結ぶ道路ネットワークの強化により、山陰地域のアクセス性の向上を図ります。

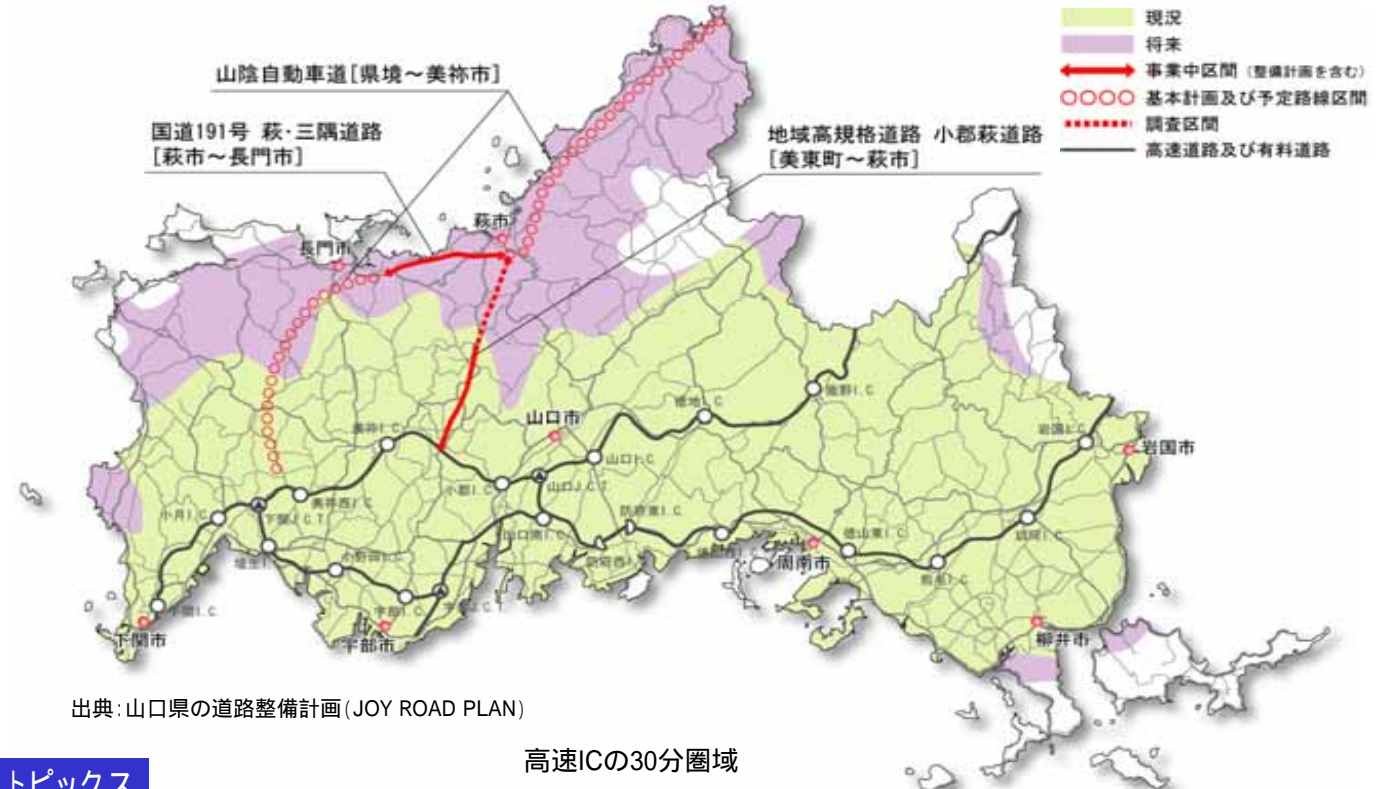
代表整備箇所「国道191号 萩・三隅道路」

自然災害による通行規制が発生しやすい国道191号を補完するとともに、広域交流の促進、地域の活性化に寄与することを目的に、整備を推進しています。平成17年度は三隅IC～明石IC間の進捗を70%から85%に推進します。



代表整備箇所「地域高規格道路 小郡萩道路」

県央の交通拠点である小郡町と山陰の中心都市である萩市を結び、中国縦貫自動車道等と連結することにより高速道路ネットワークを形成することを目的に、地域高規格道路として整備を推進しています。平成17年度は美東JCT～絵堂IC間の進捗を57%から69%に推進します。



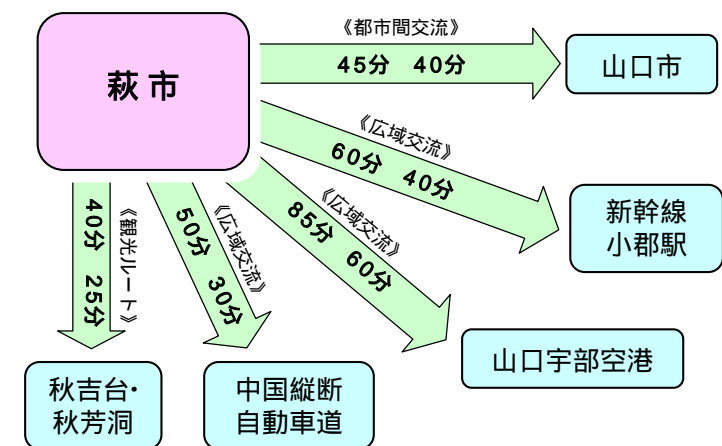
トピックス

『小郡萩道路の整備効果』

小郡萩道路の整備により、広域交流拠点との連携強化等が図られ、主な観光地や公共交通拠点までの所要時間も短縮されます。

小郡萩道路の役割と整備効果

山陰地域と県央部との交流促進
主要都市と空港や新幹線駅、重要港湾などの広域交流拠点との連携強化
観光拠点を結ぶ広域観光ネットワークの形成
地域開発プロジェクトの支援
ジョイフルロード構想の推進



小郡萩道路による時間短縮効果の例示